

南あわじの化石再発見

野田 富士樹
(南あわじ地学の会 会長)

はじめに

淡路島の南部には中生代白亜紀後期の和泉層群という地層（約七千万年前）や、鮮新世から更新世にかけて（およそ350～120万年前）堆積した大阪層群が分布している。和泉層群からはアンモナイトや二枚貝などの豊富な化石が知られており、大阪層群からはアケボノゾウなどの脊椎動物化石や植物化石の産出が知られている。さらに、鳴門海峡付近の海底からはナウマンゾウの化石が底引き網にかかって引き上げられることがある。

このように淡路島南部地域は兵庫県でも有数の化石産地であり、これらの化石は地元の貴重な自然遺産と考えられる。しかしながら、とくに和泉層群産の化石は地元にはあまり残っておらず、多くが島外に持ち出されている。

南あわじ市内の一部の学校において、化石が保管されていることは知られていたが、これまで詳しく調べられたことはない。今回、各学校に保管されている化石を調べることで情報の収集ができ、データベース化することによって、南あわじ市だけでなくその他の学校においても教育の一環として利用出来るのではないかと思い調査を行った。

調査方法

事前に南あわじ市内の各学校に市の教育委員会から保管化石の有無についてのアンケートを出して頂き、「保管化石あり」と回答のあった学校を対象とし、地元産の化石を中心に、その個数や種類などを調査した。この調査は私たちが会の発足（2005年6月）以前から進めている学校化石調査で、現在も調査継続中である。

アンケート回答結果 2005年12月20日 現在

南あわじ市内

小学校17校中 「保管化石あり」 7校、「保管化石なし」 8校、「不明」 2校

中学校7校中 「保管化石あり」 3校、「保管化石なし」 3校、「不明」 1校

高校 2校中 「保管化石あり」 1校、「不明」 1校

学校化石調査結果

校名	化石点数	うち和泉層群産	うち大阪層群産	うち海底産	主な化石
辰美小学校	24	9	0	2	アンモナイト
阿万小学校	8	3	0	2	ナウマンゾウ
北阿万小学校	5	3	0	0	アンモナイト
倭文中学校	15	6	4	2	アンモナイト
南淡中学校	12	2	3	3	ナウマンゾウ

今回調査した化石の中で特に重要と思われるゾウ化石4点について改めて2005年12月に「人と自然の博物館」の三枝春生研究員に鑑定の依頼をした。その中にはこれから調査を行う予定の市外中学校で保管されているゾウ化石1点が含まれていた。その結果ナウマンゾウの「左下顎第三大白歯+左下顎破片」、「肩甲骨破片」、「左大腿骨破片」およびアケボノゾウの「左上顎第三大白歯破片」であった。特に「市外中学校のアケボノゾウが貴重で文献で記載されたものであり恒久的に管理・公開されうる機関に即急に移管すべきものです」とコメントを頂いた。



(ナウマンゾウ化石、長さ約 40 cm)

他の化石では、和泉層群の地層から見つかったと思われるアンモナイトの化石、二枚貝化石、植物化石、生痕化石などがあった。



(ヤーディア)



(アンモナイト、パキディスカス)

保管されている化石には発見者の氏名、産出場所（海上で引き上げられた場合はその海上位置）、発掘年月日の情報がないものがほとんどであった。

考察

調査前の予想では化石産地に近い学校では個人などから持ち込まれた化石が多く、産地から遠い学校には少ないだろうと考えていた。しかし、海岸から離れた学校にも海底から引き上げられた化石が保管されていたということや、化石から推定される産地から遠い学校に保管されている場合もあることから、当時の学校の先生による収集力の差が大きいのではないかと考える。またアンモナイトのようにマニア向けする化石で完全体の物が一個も無かった理由については、以前から完全体で見つかることが少なくかなり貴重であるため、完全体の化石は個人的に保管されたか、化石マニアや博物館等に渡ったためでないかと考える。

地元産化石活用の問題について

調査を進めていくと、教育に地元産化石の活用を図るにはさまざまな問題点があることが分かってきた。

問題点 ①

各学校の先生方に聞くと「化石に関する授業時間が少なく、地元産化石を活用して深く授業を進めていく時間が持てない」という話であった。

問題点 ②

一部の学校では、化石をそのまま理科室の棚に並べただけであったり、一つの木箱の中に何種類もの化石が一緒に入ったままの状態であったりした。

もろい化石は時間と共にバラバラになり、元に戻せなくなる不安がある。

問題点 ③

化石について、発見場所、発見者、発見日時の情報が欠けており、追跡調査が困難である。この状態が長く続けば、今後、改修工事や片付けなどがあった場合、紛失化石が出る可能性がある。

問題点 ④

理科の先生も色々な専門があり、特に化石に関して熱心な人がその学校にいる場合は、地元産化石の有効な活用が行われても、違う人が担当になった場合に有効に活用してもらえないかどうか分からない。

これからの取り組みについて

現在は南あわじ市だけの調査であるが、他市学校にも広げていく予定である。データベース化し、また広く一般に情報発信や展示活動などを通じて、多くの人に地元産化石の重要性や有効利用について啓発ができ、ひいては化石の散逸防止につながると考える。